

## 式 辞

北国にも春の到来が実感される今日の佳き日、洋野町長水上信宏様を始め、多くのご来賓ご臨席のもと、平成二十七年度入学式を挙げてまいりますことに心から感謝申し上げます。

ただいま入学を許可された普通科五十二名、海洋開発科三十一名の皆さん、入学おめでとう。また、ここまで子どもたちを慈しみ育て、この日を待ち望まれていた保護者の皆様にも心よりお祝い申し上げます。

本校は、高等学校としては全国で唯一潜水技術を学ぶことのできる海洋開発科と普通科を併設する創立六十七年目を迎える学校であり、特色ある教育実践により内外から大きな注目を集め続けているところであります。

普通科新入生の皆さん、皆さんは「普通」という言葉の意味をきちんと考えたことがあるでしょうか。「普通」とは「普<sup>あまね</sup>く通ずる」と訓読することができます。すなわち「普通科」とはあらゆる分野に通用する人材を育成する学科ということです。進学を希望する人、就職を考えている人、いずれにも対応した教育課程が編成されています。皆さんには自らの進路を見定め、将来への可能性をどんどん広げていただきたいと思います。

海洋開発科新入生の皆さん、海洋開発科は昭和二十七年の潜水科設置以来、「南部もぐり」の伝統を引き継ぎ、幾多の有為な人材を輩出してきました。その活躍の場は日本国内に留まらず、世界中に広がっています。経験豊かな先生方の指導の下、我が国の産業を担う最先端の技術者になってほしいと考えます。

さて、入学式にあたり、歓迎の気持ちを込めて二つのことをお話します。

一つ目は、本校の校是、「自愛」「自立」「自彊」についてです。

一番目の「自愛」とは、自分自身を大切にすることですが、それだけではなく、他の人を尊敬し大切にできる人間になって欲しいという願いが込められています。家族、友人、先生や先輩との間の信頼関係をしっかりと築き上げてほしいものです。

二番目の「自立」には、自分の役割をしっかりと自覚し、責任をもって実行できる人間になって欲しいという願いが込められています。

自分の仕事に責任を持てる人だけが、自立した人間として社会に認められるのです。

三番目の「自彊」には、どのような困難にぶつかっても、挫けることなく、前向きな態度で何事も克服できる人間になって欲しいという期待が込められています。本校では、五つの自彊と称して、「挨拶をする」「きまりを守る」「授業に集中する」「資格を取る」「部活動を頑張る」という具体的な目標を定めています。

以上、「自愛」「自立」「自彊」という校是を胸にきざみ、三年間の学校生活で、優れた「人間性」を養ってください。

二つ目は「三年間の高校生活を有効かつ有意義に過ごしてほしい」ということです。「歳月人を待たず」とはよく言われる金言ですが、これは中国六朝時代の詩人陶淵明の詩の一節「時に及んで當に勉励すべし 歳月人を待たず」に由来します。長いように見えて、無為に過ごせば高校生活三年間はあっという間に過ぎ去ってしまいます。人が最も多くの知識を学び、成長できるこの時期に、是非時間を惜しんで勉強励んでほしいと願っております。高校での学習や部活動は、その後の就職や進学に直接繋がり社会人として自立するための力を養うものです。これから益々厳しさを増す社会の荒波に立ち向かうため、高校生活での瞬間瞬間に出会った人たちを大切に何事にも高い目標を持ち真正面から取り組んで下さい。私たち教職員も皆さんの成長のために力を惜しまず努力します。

あの震災津波から四年。被災地での様々な事業は着実に進んでいるとはいっても、本当の意味での復興はこれからです。皆さんの若い力が今後必ず必要になります。そして本校での三年間を価値あるものとし、社会に貢献できる人材となれるかどうかは、皆さんの心がけ次第です。今日この日の初心を忘れず、充実した学校生活を送るよう期待して式辞といたします。

平成二十七年四月八日

岩手県立種市高等学校  
校長 南館秀昭